

サブ課題C（沢田チーム）第1回SIPシンポジウム「地方自治体等のヒューマンリソースの戦略的活用を考える」の開催



▲岐阜大学 沢田教授による開会あいさつの様子

令和5年5月18日（土）@新潟

サブ課題C「地方自治体等のヒューマンリソースの戦略的活用」では、プロジェクトマネージャー(PM)である長井宏平氏のもと、沢田チームは、宮里チームとともに、社会インフラの多くを占める地方公共団体所管の構造物について、適切に点検・維持管理を行い、必要な機能を確保するため、地域総動員のインフラメンテナンスの体制の構築を目指しています。

本シンポジウムでは、当プロジェクトチームとして、自治体職員や地方の中小企業が活用するための使いやすい維持管理技術の開発、インフラ維持管理に必要なナレッジの共有及び必要な人材育成の仕組みを構築する取り組みについて紹介しました。まず、長井PMから第3期SIPについての特別公演を頂いた上で、岐阜大学の沢田教授よりサブ課題C・沢田チーム全体説明を行い、岐阜大学・長崎大学・愛媛大学・山口大学・舞鶴高専・宮崎大学・福岡大学の各サブ課題担当者から、担当課題の研究進捗の報告がありました。本シンポジウムに先立ち、「ME・道守修了生ワークショップ（ME・道守が目指す5年後のゴール）」、「人勢育成連携コンソーシアムシンポジウムin新潟（インフラを守る技術で未来を造る）」を前日までに開催し、本シンポジウムにもME・道守の修了生が参加して意見交換を行った。

〔サブ課題C-1〕研究開発の内容

研究開発テーマ

c-1(1)：「教育環境のプラットフォーム等の構築に関する技術開発」

- 地方自治体職員を対象としたデータアナリスト・アナリストと専門基礎講座のカリキュラム開発と実装
- 教育用デジタルプラットフォーム（IMSS）の構築と教育効果の検証
- データアナリスト・アナリスト養成講座に適したインフラ症例データベース・セットの構築
- デジタルインフラミュージアムの整備、アウトリーチ活動への展開とその効果検証

基礎から応用、Society5.0を見据えたデジタル技術をも包括する教育環境プラットフォームを構築し、時間や場所にとらわれず継続的にスキルアップできる場を目指す

c-1(2)：「維持管理対応を効率化する現場で使いやすい技術開発」

- 市町村職員の知的好奇心の涵養から実践力への転換・社会実装（DIY技術）
- 地方自治体における維持管理対応の効率化・高度化を目的とした住民通報システムへの展開
- iPadのLiDARにより取得した点群データを活用した定期点検の簡素化
- 第1期SIP新技術を活用した斜面・構造物点検と診断のためのシース試行場の提供

地域や技術力の違いにかかわらず、地方自治体職員を含む幅広い技術者が使えるハンディな技術を開発・実装することで、次の展開を目指す余裕を生み出す

▲当日の発表内容



▲意見交換の様子